

臍帯血の保管設備増設

STEMセル研 横浜に第2センター

STEMセル研究所（東京都港区、清水崇文社長、03・5408・5279）は、人間のへその緒から採取した血液である臍帯血の保管設備を増設する。横浜市緑区に「第2保管センター」を新設し、保管できる検体数を現行の7万から14万に倍増する。また血液だけでなくへその緒自体の保存もできるようにする予定だ。投資額は約1億円。年内の稼働を目指す。

真空断熱構造で超低温供給装置など、臍帯温を維持する細胞保存 血を液体窒素温度下で容器や、遠隔コントロ 適切に長期間管理する 可能な液体窒素自体のための施設を新設す



る。延べ床面積は約170平方メートル。各種監視システムを導入で、安全性も高いという。

臍帯血は低酸素性虚血脳症や脳性まひの治療可能性があること
 臍帯血を長期保存、管理する「第1保管センター」と同じ敷地内に「第2保管センター」を新設する

して臨床研究が進む。自身が生まれた際のへその緒から採取した血液を使うため、取り違えを防止する必要がある。バーコードにより照合管理し、品質に関する情報と二元管理する。

今後、羊水や胎盤などの保存も検討する。再生医療分野で注目度の高い周産期組織だ。

清水社長は「産科の医院とネットワークができているため、出産時に生じる組織はどれも採取できる。多くの疾患の治療につながってほしい」と話す。

STEMセル研は日本トリムの子会社で、臍帯血の長期保管サービスを手がける。産婦人科領域のネットワークと独自の輸送

システムを確立し、同サービスの提供を可能とした。民間では最大の臍帯血バンクで、国内シェアは99.9%という。